神示を生き方に据え
社会を導く信者へと

神魂誕生十五周年の光寿信者参拝時を迎えます。直使、代神のおかげで救いの道が確立したからこそ、神魂の時代へと時が進みました。そうした時代の幕開けから十五年。信者としてしっかりと自立できたかどうか、それが問われる今年です。神の教えから豊かな心を育み、多くの人々の役に立つ、得徳のかなう毎日を送っていきましょう。

日々見聞きするさまざまな出来事。そうした現実を知れば知るほど、人の心は揺らぎます。しかし、神のご指導から社会の変化を知り、その中でどのように生きていけばよいのかをつかむことです。それができれば、流れにのまれることなく、地に足を着けた生き方ができます。そして、心が豊かに育まれ、自らの存在を社会で生かして得徳がかない、開運へと歩みを進めていけるのです。

得徳をかなえるためにも、神の教えを学ぶことが欠かせません。神の教えは、神のお言葉、神示から学ぶものです。そのために、数々の神示が表されています。神示を繰り返し学び、自身の生き方に据えるのです。生きさまざまな形で実践し、人生に徳が積まれます。開運へと近づいていきます。

人生を高めていく得徳について、神はこのような神示をもってご指導くださっています。

神　示

「教え」に生きて　人の心は安定し
社会を平和へと導く人と成る
人類が　願い　求める幸福は
文明　文化の
発展の先にあると思う
なれど　現実社会は
主義　主張に
生活を振り回されて
安定しない
姿　形の発展はあれど
人間の心は停滞し
迷いを深めている
信者に申す
神が使者を通し
世に示す「教え」を
「心」に生かす努力を
欠いてはいけない
「教え」を学ぶ人は皆
心の姿が見えてきて
「人生」を正す自覚が持てる
「真理」の見えない今の世は
自ら実体を下げ
運命に重なる人が少ない
を心の支えに生きて
信者を目指せよ
得徳の姿がある

誓願の思いを実現へ
心の道を毎年清めて
福寿の集い

全人生を神魂に預けて生きることを誓う明魂登録。その登録と同時に受けるのが、「明魂」誓願の儀。そして、年追うごとに人生を高めていけるように、神魂のご守護の下、確実な開運を求めて毎年開催されるのが、福寿の集いです。明魂登録を済ませた本人とその家族を対象に、今年の福寿の集いが八月六日に行われました。

福寿とは、幸福と寿命です。神の意図される幸福とは、悔いのない人生を歩み抜き、開運をかなえること。そして、寿命は、単なる長寿でなく、命が尽きるまで心身ともに健康であることです。

人の正体は、魂です。人は、誕生と同時に、神の手の中、魂が親から受ける肉体に宿されます。そして、人生を歩み抜いて、肉体が尽きた後も、その魂は神魂に吸収されては、また生まれてくることを繰り返します。それが、明生です。

明生の力に生かされている真実を知った人が、自ら生を受けた環境、我が家の心の道をより良いものとし、そこにまた生まれてこられるようにと願うのが、明魂誓願であり、「福寿の集い」です。確実な開運に、毎年本人、および家族の心を清める場が、福寿の集いなのです。

人は、有限の人生を歩んでいます。しかし、心の道は、無限です。その無限の道を未広がりに良くするためにも、今の自分に与えられた人生を正しく歩み抜くことです。教えを学び、的確な判断力を身に付けて、道を欠かない心遣いが不可欠です。そして、自らの存在が多くの人々の役に立つように、奉仕の心で生きるのです。

福寿の集いに当たり、神はこのようにご指導くださいました。

神　示

「教え」に生きて
運命の力を世に奉仕する
信者を極めてゆく――
奉仕の真理に悟りを深め
一人一人の出会いを
大切にすること
ますます「人生」は磨かれ
多くの人の心の手本と
成ってゆく
「教え」が日々の心を高め
悔いなき人生へと導いてゆく
家族　縁者との会話を深め
感謝の思いを自ら伝える
我が存在を軸に
家族　縁者の会話は
ますます深まり
運命を磨く
和のある家庭環境が
築かれてゆく
有限の命の尊厳を
家族一人一人に
身をもって伝える我であれ
「教え」に生きる家庭の尊さが
家族一人一人の心に
伝わってゆく
家族の人生は
神の手の中　大きく守られ
そこに我が身の存在も
高くなる

誓願の思いを実現へ
心の道を毎年清めて
福寿の集い

全人生を神魂に預けて生きることを誓う明魂登録。その登録と同時に受けるのが、「明魂」誓願の儀。そして、年追うごとに人生を高めていけるように、神魂のご守護の下、確実な開運を求めて毎年開催されるのが、福寿の集いです。明魂登録を済ませた本人とその家族を対象に、今年の福寿の集いが八月六日に行われました。

福寿とは、幸福と寿命です。神の意図される幸福とは、悔いのない人生を歩み抜き、開運をかなえること。そして、寿命は、単なる長寿でなく、命が尽きるまで心身ともに健康であることです。

人の正体は、魂です。人は、誕生と同時に、神の手の中、魂が親から受ける肉体に宿されます。そして、人生を歩み抜いて、肉体が尽きた後も、その魂は神魂に吸収されては、また生まれてくることを繰り返します。それが、明生です。

明生の力に生かされている真実を知った人が、自ら生を受けた環境、我が家の心の道をより良いものとし、そこにまた生まれてこられるようにと願うのが、明魂誓願であり、「福寿の集い」です。確実な開運に、毎年本人、および家族の心を清める場が、福寿の集いなのです。

人は、有限の人生を歩んでいます。しかし、心の道は、無限です。その無限の道を未広がりに良くするためにも、今の自分に与えられた人生を正しく歩み抜くことです。教えを学び、的確な判断力を身に付けて、道を欠かない心遣いが不可欠です。そして、自らの存在が多くの人々の役に立つように、奉仕の心で生きるのです。

福寿の集いに当たり、神はこのようにご指導くださいました。

神　示

「教え」に生きて
運命の力を世に奉仕する
信者を極めてゆく――
奉仕の真理に悟りを深め
一人一人の出会いを
大切にすること
ますます「人生」は磨かれ
多くの人の心の手本と
成ってゆく
「教え」が日々の心を高め
悔いなき人生へと導いてゆく
家族　縁者との会話を深め
感謝の思いを自ら伝える
我が存在を軸に
家族　縁者の会話は
ますます深まり
運命を磨く
和のある家庭環境が
築かれてゆく
有限の命の尊厳を
家族一人一人に
身をもって伝える我であれ
「教え」に生きる家庭の尊さが
家族一人一人の心に
伝わってゆく
家族の人生は
神の手の中　大きく守られ
そこに我が身の存在も
高くなる

確実な前進を神魂に
故人の魂は安心感が

神魂誕生から十五年の節目となる今年の光寿信者参拝時には、神の教えに生き、確実に開運に向けて前進している心の成長を、神魂にご報告したいものです。まして、神からは、年頭に課題も示されています。自分一人だけでなく、家族で教えを学び、家庭の中で生かすことが、我が家の開運のためにはどうしても必要です。

節目の年の光寿信者参拝時には、各自が心の歩みを見詰め直し、神魂にご報告、御礼、また新たな決意を誓って、歩みを進めていきましょう。それぞれの抱く思いは「御礼御祈願書」に託し、かなえば神総本部真実の光の儀に参列して、神魂に真心を届けましょう。

併せて、故人、先祖の魂にも、家族一人一人が神魂のご守護の中で安泰な日々を送っていることを報告して、最高の安心感を届けましょう。それが、光寿信者参拝時に重なる神玉祭です。

神玉祭は、神総本部は偉光会館でも行います。神魂のお力で各自の思いを確実に故人の魂に伝えることがかなう神玉祭。この大切な場に、家族、親族そろってご参加ください。これを機に家族、親族の縁を深め、一族ともども開運を目指していきましょう。

神魂誕生15周年の節目には神総本部へ

運命を磨くのは家庭
子供のために親として

人は、心で生きています。心の動きは、運命実体に導かれています。ですから、実体を修正し、社会に役立つ運命を大いに引き出していくことが大切です。

心の動きをより良いものとするためには、心が安らぐ環境が必要です。心が不安定では、実体に流されてしまいます。家庭においてこそ、人の心、運命は磨かれるのです。

子供を良い子に育て、仕合せな人生をと願うのは、親として当然です。それには、家族それぞれの運命を磨ける家庭環境を築き上げることです。常に思いを交わす会話のある、愛情にあふれた家庭とし、それぞれが立場を守って暮らしていくことです。

子供の教育方針で、夫婦の思いが重ならない家庭もあります。思いを重ねる前に、会話が不足している夫婦もままあります。夫婦の思いが通じなければ、親子の心も通いません。

神魂のご守護を受け、子供を仕合せな人生へと導いていくために、親として何が必要なのか、神は保護者に向けてこのように具体的にご指導くださっています。

神　示

「和のある家庭」の姿を教えん
人生の意味
家庭の価値を知ることが大切
運命実体で生きる人間は
運命の力を引き出すために
家庭が必要
「教え」を学び
「人生」に生かせる人は
自然と家庭を求める
その時　必要なことは会話――
夫婦　親子の運命をつなぎ
実体を高める出会いである
家庭を築き　我が子を育む信者に申す
夫婦で「教え」を学び
互いの思いを重ねて
我が子に触れていようか
夫婦二人の考え　「思い」は
教えを二人で学び
家庭の姿に生かす
努力をすれば
自然と会話は深まり
まとまってゆく
そこに　我が子の心は
親の考え
「思い」を受け継いで
実体を高めてゆく
「教え」のある家庭に
家族の心は一つにまとまり
我が子は「道」ゆく人と成ってゆく

教えに生きる意味を
運命に重なる人生に
帯広信者勉強会

広大な北海道では、札幌の偉光会館に加え、道北の旭川、道東の帯広にも偉光会館の開設を計画しています。八月十三日には、供丸光先生が帯広まで出向かれ、神示を基とした勉強会を行ってくださいました。神は、このように表されました。

神　示

「教え」に生きる意味を教えよう
運命を通し　人は皆　神とつながっている
神に心向ける人は　運命の力が引き出され
日々心安定している
なれど　欲心に溺れる人も多く
実体に心乱され　迷い　悩む
信者に問う
この地の実体を分かっていようか
努力が実らず　晩年むなしさが漂う地
なれど　「教え」を学び
心の支えにするなれば
無常に心流されず　「夢」はかなう
心明るく　夢多く　希望ある人生を
家族で歩める
努力も生きて
実りある晩年を迎えることがかなう
神の「教え」は真理
ゆえに　人の心に悟りを与え
運命の力に導かれた人生を歩むために
「学び」深める意味がある
「教え」のある環境に　人の心は磨かれ
社会を「正道」へと導く人を育てる

人は誰も、世に必要とされて生まれてきています。ところが、何か肉体的な不自由さがあると、健常者、障害者と分けがちな現代です。社会は、できないことをできる人が補うのは当然のことです。しかし、区別することはありません。

供の会は、障害があっても、それぞれの持っている運命を生かし、力強く生き抜いていけるように、神魂と共に生きる心を育む場。八月二十六日供の会に向けて、神はこのように表されました。

誰にも世に役立つ力が
毎日を奉仕心で
供の会

神　示

「教え」に生きて
我が「運命」の力をもって
世に奉仕する人であれ
神見るに
皆は人に求める思いが強い
よって
我が存在を生かしきれていない
今なすべきことは
家族　縁者に感謝の思いを
伝える心を欠かないこと
この思いが深まるほどに
相手のために「生きる」心が
強くなる
奉仕に「生きる」人は
自分の力を引き出し
磨く努力を日々重ねる
家族　縁者　友人　知人の心に
自立した人と映る我を目指す
人間は皆　神の手の中
社会に奉仕して「生きる」力を
与えられて誕生している
この一言「真理」を
深く心に留めて
「教え」を我が心の支えに生きよ
自然と　皆の心に
「夢」が湧き上がり
社会を「正道」へと
導く人と成ってゆく

人の支えなしに生きられる人など、一人もいません。ですから、支えられることを当たり前と思わず、できることを進んで人のためにすることです。奉仕の心こそが、運命を磨きます。そして、生きがいを生むのです。

神が命名された供の会です。供とは、神の子を意味します。誰もが神の子、社会に有用な存在です。教えに生きて、光り輝く自分となるのです。

歩みを進める課題が
努力の的を神示から

神の存在を知り、また神から教えを学んで、さまざまなことを乗り越えながら、人生を高めている一人一人の歩みがあります。また、全国の各地域にも、信者の誕生から救世の輪の拡大、そして偉光会館の開所、また発展と、刻んできている歴史があります。

そこには、泣き笑いとともに、救われた喜びがあふれています。また、年輪の違いもあれば、見られる傾向、抱える課題も異なるものです。

その中で山梨偉光会館は、開所から二十六年、さらにそれ以前を加えると、半世紀に上る歴史がある地域です。その山梨が、これまで以上に大きく前進するにはどうすればよいのか、八月二十日に供丸光先生が神示を基に努力の的をご指導くださいました。

神の実在
「直使の偉光」を
心底受け止め
日々歩む我であれ
知識と努力を頼って
「生きる」思いが強く
希望の光の
「真実　真理」が
見えないでいる
真実の和心が
身に付くまで
「教え」を学び
心の「道」ゆく
信者を目指すと
「教え」を心の支えに
生きるほど
「運命」の力が
引き出され
多くの人との
縁が深まり
皆の心は守られてゆく
人を恨み
悪口　陰口
あってはいけない
家族で教会に出入りし
家族で
「教え」を学ぶほど
和心が育ち
仕合せの輪が
広がってゆく
「教え」に悟りを得て
悔いなき人生を歩む
人の姿が
ここにある

神は、欠けているところ、気付かなくてはいけないところ、努力していくべきところを、詳しくお教えくださいました。山梨偉光会館の信者一同は、神のご指導を受け、確実な前進に向けて意欲を新たにしています。

友輪
発行所　横浜市南区宮元町４丁目82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045・731・5373
©大山祇命神示教会　2017

――会話のある家庭に
人間の心は磨かれ
夢ある人生を歩んでゆける――
神示教会に家族で出入りし
家族で「教え」を学ぶほど
家族の心は重なり　神の守りも大きい

家族で開運の道を
感謝と報恩の心で

神魂誕生15周年

「今日までどれほど救われてきたか」「何より心の変化を実感して…」神魂誕生十五周年の今年、一人一人が直使、代神への感謝と報恩の心を新たにしています。神魂との揺るぎないつながりが、人生の目標である開運を確かなものにしていくのです。

心の変化が救いへと

直使と代神が心血を注いで築かれた礎の上に、自ら希望の光を通せる時代を迎え、早十五年。神の教えと祈願の実践によって、多くの人々がさまざまな救いを味わっています。

「問題に直面しても慌てずに、的確な判断ができる自分に…」「以前はこだわっていたことも、物事を大きく受け止められて、悩まなくなった」「相手の良さが分かり、誰ともうまく付き合うことが…」「家族を思いやり、何でも話せる明るい我が家に…」心の変化が日々の仕合せにつながっています。

信者としての成長が

神魂誕生十五周年を記念して、『真実への道 光の足跡』集大成版が発行され、神総本部で展示会を開催中です。教会史に触れる機会が増え、「直使と代神の尊い人生に胸を打たれた」「仕合せ、幸福を本気で目指そうと思った」「開運した姿を神魂にお見せしたい」との声も多く聞かれます。

がんの再発で不安を抱えていた人が集大成版を熟読。「神から命を頂き、家族や周りの人にもどれだけ支えられているか」神の愛の中にいる自分に気付き、「感謝を忘れずに精いっぱい生きよう」と、前向きに治療に臨む気持ちに変わりました。

「お二方から、家庭の大切さを繰り返し学んだことを思い出した」と語る五十代の夫婦。子供と展示会を見て以来、家族で都合を合わせて偉光会館へ足を運んでいます。勉強会で学んだことを語り合う機会が増えるにつれ、互いを気遣えるようになり、楽しい会話が弾む日々に。光寿信者参拝時には、家族で神総本部を訪れ、心の成長を報告しようと思っています。

歴史の重みを皆で感じて

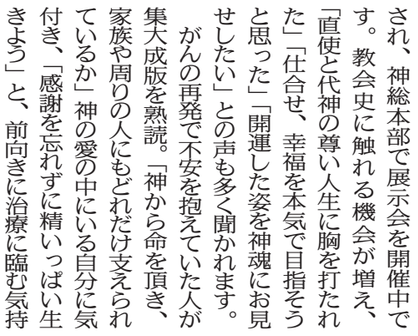
教えに沿う生き方を

「神に出会えたおかげで…」「いつでも守られている安心感が…」神魂との絆が深まるほど、神の教えに沿う生き方を目指す意欲が高まります。

教会へと導いてくれた父親が、闘病中も穏やかに暮らし、ほほ笑みを浮かべて心の世界に旅立ちました。その姿に、「自分たちも父のような生き方を…」と思った家族。仕合せな人生を子孫につないで最高の親孝行ができるように、今まで以上に学びや祈願にも心を注いでいます。

神示を繰り返し学ぶうち、人に役立つ生き方を意識し始めた人が、職場で責任ある立場を任されました。「みんなが生き生きと働ける店に…」と、それぞれの持ち味を生かせるように気配りし、誰よりも元気な挨拶と温かい言葉を口にする姿が周りを感化。活気ある雰囲気になり、利用者から居心地がいいと評判も上がっています。

神魂誕生から数えて十五年。開運に向けて、ますます家族で救世環境を活用し、教えに沿う生き方を実践していきましょう。


仕合せな日々を受け継いで

心のかけ橋

挫折を契機に 生き方に変化が

東京都　田倉直人

神の教えを真剣に学び始めたのは、大学受験に失敗した頃です。当時の私は、思うような結果が得られず、小さなことでいらいらしていました。「自分には良さが何もない」と感じた時、受験中に失っていた、人間的な温かみや思いやりのある人になりたいと思ったのです。ふと幼い頃に教会を訪れていたことを思い出し、足を運びました。

教えを学ぶと、学歴を求めても、それをなくしたときに何も残らないようではいけないと気付きました。それからは、バスに乗れば運転手にお礼を伝えたり、愛着を持って物を使ったりなど、人として大切な心が身に付いてきたと思います。

今は、家族や友人の支えの中で充実した大学生活を過ごしています。今後も教えを学び、人生を良いものにしたいです。

ゆとりを忘れず 楽しく子育て

茨城県　小林晴代

四歳、二歳、九カ月になる我が子は、かわいい半面、子育てが思うようにいかず、いらいらすることも多い日々です。そんな時、乳幼児を育てる親の集いでゆとりある心の大切さを学びました。

子供が泣き叫んだときなどは、一呼吸置いて、冷静に心を振り返ります。すると、大抵自分の都合で何とかしようとしていたことに気付くのです。祈願で心を安定させると、「さっきまでの騒ぎは何だったの」と思うほど、不思議と子供たちも落ち着きます。

夫婦で我が子と向き合うことが大切と思い、毎日子供たちの話題を夫と共有しています。三人三様に個性があり、ほほ笑ましい限りです。

同居する両親も何かと助けてくれて、感謝しかありません。穏やかな環境の我が家では、家族全員が明るく、元気に暮らしています。

ある日、子供から「パパ、ママ、じいじ、ばあば、みんな大好き」と言われ、うれしかったです。ぎゅっと抱き締めながら、親としてあるべき姿を見せていこうと身の引き締まる思いでした。皆で笑って過ごせることが何よりの仕合せです。

家族で話し合い 人に役立って

香川県　森弘幸子

代々受け継いできた土地で、定年退職後も夫婦で米作りを続けてきました。ところが、周りに新しい家が建ち並び、我が家の田んぼだけが取り残された状態に。そこで、どうすればよいか、家族全員で考えました。そして、人のお役に立つ使い方をしようと、土地の一部に賃貸マンションを建てることにしたのです。

住む方たちに心地よく暮らしてもらえるようにと、間取りも家族中でアイデアを出し合って決めました。みんなで相談しながら進めたことで、今まで以上に会話が増え、家族と心を重ねる大切さを実感しました。

多くの方のお世話になり、感謝しています。完成後、住むこととなった皆さんに快適に過ごしてほしくて、折に触れて家族それぞれが様子を見に行きます。マンションの植木に水やりをしていれば、入居者と気持ちよく挨拶を交わすことも。家族一人一人ができることで、人の役に立ちたいと思っています。

良さを生かして ピアノ教室を

長野県　藤森香織

私は、ピアノが大好きで、自宅で教室を開いています。以前は、演奏の上手な人を見て、「私が続けてもいいのだろうか」と悩んだこともありました。しかし、神の教えから、人それぞれに良さがあることを学び、誰かと比べず、自分のペースで頑張ればいいと、心が軽くなったのです。

生徒さんには、技術の上達はもとより、音楽を身近に感じて、楽しんでほしいのが私の願いです。「数ある教室の中でうちに来てくれた」と出会いに感謝し、うまくなりたいという思いに応えようと、毎回レッスンに臨みます。同じ曲でも慎重に弾く子、テンポよく弾く子など一人一人異なるので、個性を尊重する指導を心掛けています。

やり遂げる達成感や演奏の楽しさを味わってほしくて、年に一回、発表会を開いています。それが子供たちの自信や思い出になっているといいなと思います。

日々音楽に携われるのも、家族の協力のおかげです。ですから、家事一つも、皆が気持ちよく過ごせるように心を込めます。夫や子供も音楽が大好き。時々娘に「一緒に歌おう」と誘われて、全員の合唱が始まることも。にぎやかな家族音楽会を楽しんでいます。

家庭も、教室も、私なりの良さを生かして、一層居心地の良い場所にしたいと思っています。

専門家の講演を気軽に…
文化講座で充実の時を

さまざまな話題が

文化講座は、各分野で活躍する専門家の話を聞ける魅力的な行事です。神総本部から偉光会館に中継し、毎月二回実施。話題が豊富で、人々の関心が高い医療関係だけでも、病気と睡眠の関係を考えるもの、むくみの話、便のこと、公的保障制度を見詰めるものなどさまざまです。加えて、料理、介護、育児、建築、政治など多岐にわたる講座を受けられます。

食に関する話は、主婦だけでなく、男性にも人気です。薬との付き合い方を語った薬剤師の講座には、老若男女が訪れました。和服や浴衣がテーマの会には着物での出席者もいて、一人一人が興味のある講演に足を運んでいます。

「理系の夫と一緒に、数学者の講演を聞きに…」「外国の文化に関心のある娘を、駐日大使が担当する講座に誘って…」など、各自が目的に合わせて気軽に参加。神の館の近隣に住む方々など、初めて神示教会を訪れた人も含め、それぞれが充実した時間を過ごしています。

楽しみながら、ためになる講座

含蓄に富んだ内容

「講師の人柄に引き込まれ、あっという間の四十分だった」「知りたかったことを分かりやすく教えてもらえて満足」どの講演も、専門知識がなくても十分楽しめます。

フォトグラファーの能登直氏は、「写真の力」をテーマに語りました。宮城出身で、東日本大震災後は、東北を元気づけるフリーペーパーの作成やイベントでの写真撮影など、各種ボランティアに参加したり、仕事で撮影したフィギュアスケートの写真展を開催。多くの人に喜ばれ、それが自分の力になったことを話しました。「被災者の励みになれば…」との講師の思いに、出席者も深く共感しました。

子供の心に寄り添うことをテーマに講演したのは、長年保育士として活躍してきた前川知恵子さん。「子供には、必ず良いところがある。それを見つけて、いっぱい褒めてほしい」「子育ては大変でも、かわいい時期に育児を楽しんで…」との呼び掛けに、勇気が湧いたと喜ぶ人も。「ゆったりした心で子供と触れ合わせていけるように…」「何事も夫婦で話し合い、力を合わせていく大切さを再確認した」育児中の人も、そうでない人も、前向きな気持ちになりました。

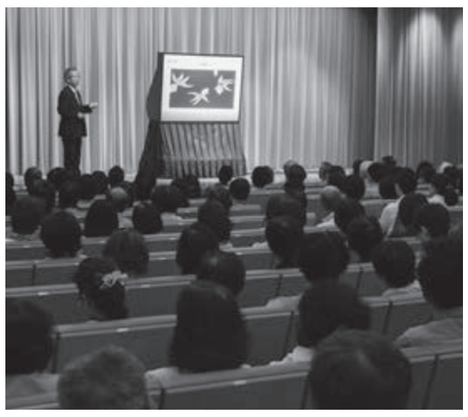
多くの人が利用するスイカやパスモなどの電子マネーの開発に携わった宮沢和正氏は、その誕生秘話を披露。期待の面持ちで参加した男性も多く、「便利なサービスで世の中を変えたい」と、熱い思いで取り組んできた宮沢氏の話に、みんなが聞き入ったひととき。

「事業をする上で、人と人とのつながりはとても重要。社内外の方たちと連携を取り合ったことが素晴らしい財産に」「ここまで来られたのは、周りの方々のおかげ。感謝を忘れずにいたい」重みのある言葉に深くうなずき、参加者は目覚ましい成果に惜しみない拍手を送りました。

深く考える機会に

今年の文化講座は、この後もさまざまなテーマで実施します。選手の力を引き出すサッカー指導者の育成術や、自分本来の価値も見詰められるコンセプトディレクターの話、自分も、相手も大切にしたコミュニケーションについて考える会もあり、興味をそそられる話題がめじろ押しです。

講師を務めるのは、日頃神の教えに触れ、人のために尽くす気持ちで社会に貢献している方々ばかりです。知識がためになったり、ちょっとしたひと言にはっとしたり、楽しみながら、物事を深く考える機会になることでしょう。

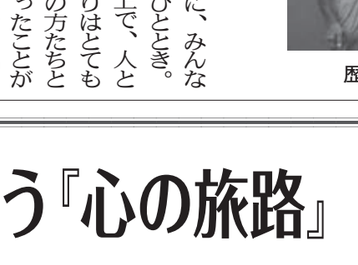

興味をそそられるさまざまな話題が

心潤う『心の旅路』
教えに生きるヒントが

「どうすれば、毎日明るく生きられるのか」「充実した人生を送るには…」誰もが求める生き方のヒントが詰まった『心の旅路』。年間三回発行されるこの本では、自分が身を置く環境で、生き生きと暮らす人たちを紹介しています。

読者からは、「社会のために全力投球する様子に感動」「裏表なく、周りの人に喜んでもらおうとする姿勢を見習いたい」などの声もあり、「本にあった料理に挑戦して家族に喜ばれた」「きれいな写真に心が和む」などと、好評を得ています。誰もが気軽に読める『心の旅路』は、神の教えに触れたことのない人にもお勧めです。

九月発行の最新刊は、巻頭特集を「仕合せの基準」と題し、前向きで誠実に毎日を送る人々の様子を掲載しました。心の在り方一つで、仕合せ感に満たされた日々を過ごす姿からは、人として大切な生き方がつかめるでしょう。


仲間の活躍が喜びに

家族の愛に見守られ
神宝祭で心の自立が

誰もが、誕生と同時に神から世に役立つ力、運命を与えられています。その力が芽吹き始める十五歳に、自分の良さを自覚できるように行う儀式が神宝祭です。

全国の神の館では、参加しやすい夏休みに集合儀式を実施。緊張した様子を隠せない若者もいれば、喜びいっぱいの参列者も。思いはさまざまでも、終了後の表情は明るく自信にあふれていました。

希望に合わせて、家族ごとの儀式も随時行っています。神総本部では、病弱だった孫の儀式で、「こんなに立派に育ってくれて…」と目を細める祖母に、孫娘と両親から感謝の言葉が。神宝祭がきっかけで、家族の心が一つになりました。

長野偉光会館では、母と娘で儀式の申し込みがありました。「良い子に成長してくれた」と語る母親と、「大人の仲間入りができてうれしい」と話す本人。温かい親子関係の中で心が育まれています。

伝導師の言葉に真剣に耳を傾けたのは、鹿児島の青年です。「反抗ばかりしたのに、今まで育ててくれてありがとう」と感謝された父母は、感無量の表情でした。

山形では、「儀式で運命という宝があると聞いて娘が変わった」と、母親から喜びの声が。「自分の持つ宝を大切に育てたい」と、朝夕しっかり祈願しているそうです。「神に期待されている喜びを感じた」と語るのは、長崎で儀式を受けた若人。「受験や友達関係で悩んだけど、これからは独り立ちして頑張る」と前向きになりました。

福岡偉光会館では、大分から三世代七人で参列。「勇気を持って人生を歩んでほしい」との父親の言葉に、息子は力強くうなずきました。

以前、兄の儀式に出席して、自分の番を楽しみにしていたと語る山梨の若者。両親や兄からの祝いの言葉を、涙ながらに受け止めていました。

心の自立の第一歩となる神宝祭。不安と期待が入り交じりながらも、家族に見守られて新たなスタートを切った若人たち。輝く未来へ力強く歩んでいくことでしょう。

夢があふれる人生を願って祈願

課外教室で心を磨く
良さを生かして前進

ことしも、神奈川県湯河原町にある偉光郷で青少年のサマースクールが行われました。

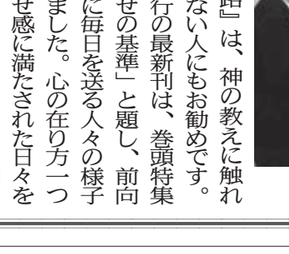
十五歳から三十歳までの友輝会（ゆうきかい）の研修には、学生や社会人など、全国からさまざまな若者が参加。神示を基に自信や魅力ある人について、意見を交わし合いました。仕事の成績で悩んでいた女性は、「結果よりも、まずはお客さまのためにできることを…」と前向きに。調理学校に通う学生は、「人に喜ばれる料理人に…」と一層意欲が湧きました。「良さを磨いていこう」と、各自が心を高めた時間でした。

寝食を共にする中で仲間の良さが見え、「自分も笑顔を忘れずにいたい」「もっと気配りのできる人に…」と感じた人も。つかんだことを生かすほど、充実した毎日を過ごせるはずです。

小中学生向けには、家族で参加する運動会を実施。初対面で緊張気味の子も、チームで力を合わせて行う中で自然と打ち解けていきました。うまくできなかった子を「大丈夫だよ」と明るく励ましたり、下級生に優しく教えたり。保護者とも、「お父さん、ナイス」とハイタッチするなど、みんなで仲良く、楽しいひとときを過ごしました。

最後には、子供たちが家族への感謝を書いた手紙を渡す場面が。「いつも優しく話を聞いてくれて、ありがとう」などと素直な思いがつづられ、保護者は笑顔に。家族や友達との絆が一層深まりました。皆で生き生きと過ごす中で、一人一人の心が育まれています。

親子で一生懸命


活発に意見交換

ご案内

光寿信者参拝時には 感謝を込めて浄財を

神魂誕生十五周年の節目を迎えた今年も、光寿信者参拝時に当たり、御礼浄財奉納をお受けします。信者の皆さまの感謝が込められた浄財は、一人一人の心を育む神示教会の環境の整備に充当させていただきます。

現在、埼玉県川越市では、平成三十年春の開所を目指して、三十三番目となる偉光会館の工事が進行中です。北海道では旭川市、帯広市で、また大分、宮崎、沖縄の各県でも計画を進めています。同時に、全国偉光会館で、神玉園の整備や各種機能の充実を図っています。今後も、心の救いをかなえる環境の拡充に向けて、皆さまのご協賛をお願いします。

編集後記

代神、直使の時代があり、今は神魂の時代。それは、自ら希望の光が通せる時代です。教えに生きて、神魂のご守護の中で、的確に判断しながら歩んでいけます。運命に重なる人生が歩めます。そうした自分の確立こそが、神魂誕生十五周年の何よりのお祝いです。